

(仮称)元気な人間まちづくり条例策定に関わる
市民ワークショップ 意見集



日時 : 平成14年12月11日
会場 : 文化創造アトリエ アミーゴ

元気な人間まちづくり条例検討会議
人間市

1 . 市民ワークショップについて

概要

平成13年11月、入間市は市制施行35周年に際し、「元気な入間」都市宣言を発信しました。この都市宣言の意味するところは、市民が主役となって、市民みんなで力を合わせ、行政と協働しながらまちづくりを進めていきたいと思います。そして、その都市宣言を具体化していくため、先ずはこれから進めるまちづくりの礎とすべく、条例をつくることといたしました。

平成14年4月、市民14人で条例検討会議を組織して、月1回の検討会議と数多くのワーキンググループ会議を重ね、条例の素案作りを進めております。今回の市民ワークショップは、より多くの意見を伺うことを目的に開催いたしました。そして、皆さまから出された意見を参考にしながら、私たち市民手作りの条例に、更には条例に基づき進められるこれからのまちづくりの中に、それらを活かしていきたいと考えております。

タイム・テーブル

- | | |
|---------|---|
| 19:00 ~ | ステップ1：はじめに
・主催者あいさつ
・趣旨説明 |
| 19:15 ~ | ステップ2：グループ分け
・都市宣言のスローガン『生き生きいるま 人・まち・自然』に因み参加者を3つにグループ分け |
| 19:25 ~ | ステップ3：グループ討議
・まちづくり推進体制がどうあればよいか「参加」「協働」「活動の促進」をキーワードにグループ討議 |
| 20:30 ~ | ステップ4：全体会議
・各グループごとの結果を発表し質疑応答 |
| 20:50 ~ | ステップ5：まとめ
・討議の成果のまとめ |

2 . 参加者の状況

(1) 参加者数 22人 (男18人・女4人)

地区別人数

地 区 名	参 加 者 数		
	総 数	男	女
豊 岡 地 区	8 人	8人	0人
東 金 子 地 区	5 人	4人	1人
金 子 地 区	0 人	0人	0人
宮寺・二本木地区	2 人	2人	0人
藤 沢 地 区	4 人	3人	1人
西 武 地 区	2 人	0人	2人
市 外	1 人	1人	0人
合計参加人数	22 人	18人	4人

グループ別人数

グ ル ー プ 名	参 加 者 数		
	総 数	男	女
人	6 人	4人	2人
ま ち	11 人	9人	2人
自 然	5 人	5人	0人
合計参加人数	22 人	18人	4人

(2) 条例検討会議委員参加者数 12人 (男10人・女2人)

(3) 事務局人数 6人

3 . 意見の概要

テーマ： まちづくり推進体制

= 参加と協働のまちづくりのしくみについて =

(1) 分野： 人 _____

参加

退職された男の人たちが家にいる。老人会の年齢ではなく、公民館活動にも参加しない。仕事を行って来てノウハウは持っており、それを活かして地域の自治活動に参加してもらえば楽しいものになる。指導者となっていれば、まちに活気が沸くだろう。

男の人の働く場としては、母親の立場から学校に一つやってほしいことがある。今は、職業がいっぱい有り過ぎて、子供がどういうステップでそれを理解するか、それを教えてあげる場があればと思う。

「元気な人間っ子作り」で、学校とかで地域の人と触れ合うことを始めた。そういうことが情報として市民に入っていないのか。探せばいっぱい有ると思うが、情報として届いていないのかなと思う。

東野高校で、2年生を対象に親の仕事を学ぶ（職業を学ぶ）という授業を行っている。それを地域と共に出来ればと思う。

体験学習は、受け入れ側が大変である。コーディネートする人が必要だ。そこに男の出番がある。

協働

受身ではなく、自ら動く。男女共同参画もやっていると思うが、連続性を持たせて行ってほしい。

女性の視点を持ったまちづくりが必要。例えば、赤ちゃんを連れて街へ出たときに色々便利の悪い点がある。ここがこうなったら便利が良いとか、そういう視点がまだ市民の側から出ていないし、市民も待っているだけはいけない。今日のワークショップも市民が進行しているが、行政が仕掛けているのかなと感じる。市民がやっていこうと気持ちがあり、市民が力を持っているのに行政が潰しているのかなという意見もある。市民がこうしたら楽しいまちになっていくという提案しても、その受け入れが出来ていないのではと感じる。その辺

を考えればと思う。

出前講座を行っているが、介護保険の説明などは市から出かけて行けばと思う。毎年65歳以上やるべき、若いうちに聞けば地域福祉で困った方をどういう主体が担うのか、それが地域福祉と思う。

活動の促進

働くにあたって保育園に子供を預けてきた、人の集まる職場は子供をあずかってくれるところがあってありがたい。行政の保育園への関わりが薄く、父兄はどこに相談に行けばよいか分からない。気軽にそういう話の出来る場が必要だと思う。

女性は子育て・家事で忙しく、これから介護も関わってくるかもしれない。働く女性が実態を発信し、話し合える場や言える窓口があれば。

働く母親増えており家庭保育室自分で選べない、現場レベルの先生の連携が出来ればと思う。施設長会議はあると思う、また訪問介護は横の連絡あると聞いた。

入間市は自然も多く、武蔵野音大、市民会館、アミーゴ等音楽施設が沢山あり、環境や文化水準高いと思う。しかし、位置的に中途半端で、都心に近いことで地域に定着しない傾向がある。音楽は人の心を潤し、子供の情操教育上も重要だと思うので、音楽団体をつないで盛り上げたいと思っている。ところが行政では、中央公民館、自治文化課、生涯学習課と分かれており、予算・事業が分かりづらい。一本化して一年間をレイアウトできれば、横の連携により文化の向上と人づくりになると思う。

(2) 分野： まち

参加

「元気な人間」は漠然としている。各種の活動で参加を促しているが、なかなか難しい。「楽しみは買うもの」との意識ではなく、お互いに汗を流してまちづくりをすべきである。

会議への参加が昼間だと特に若い人は参加できない。会議の時間帯の工夫も必要である。

協働

よいまちづくりは、市民・行政両方の責任である。「住んでてよかったと思われるまち」にするのは、人にやさしいまちづくりをすべきである。

自分も汗を流すので、行政も汗をかいてくれとの意識が重要である。この考え方を広げる努力をしているが、なかなか浸透していかない。

高齢者・障害者が住みやすいまちが自分たちにも住みやすいまちとなる。そのようなまちをつくるためには、市民と役所が同じレベルで話せる場所が必要である。この場所に役所の人が入って議論すべきである。

福祉ボランティアとして参加しているが、ボランティアを既存の枠組みの中に入れてがる傾向がある。もっと、細かい分野毎のワークショップにして、ワークショップ毎に重なる部分がある場合は、連携をすればよい。いろいろな人の意見を吸い上げる機会をたくさん作るべきである

活動の促進

まちづくりは「声かけ運動」からと思っている。もっと若い人に声をかけるべきである。条例制定までに時間があるのであれば、子供たちの声も聴くべきである。

今回のような話し合いの機会をもっと多くつくるべきである。

今回の条例は、パソコンのOSのようなものである。話し合う場のシステムづくりが条例であると考えている。

市のインターネットが利用者の視線になっていない。若い人の意見をより多く吸い上げるためにも、インターネットを活用すべき。

(3) 分野： 自然

参加

市民は興味がある事には飛び付くと思う。

入間市の身近な自然を楽しむために参加する。

入間市の自然を将来に向けて保全するため、自ら参加する。

協働

行政に財力が無くなってきている中、これからは市民との協働により多くの事をやっていく時代に変っていかなければならない。

市民はどんどん進んでいるのに、市役所はまだまだ旧体制である。市役所も意識改革していただきたい。

まちづくり条例はどの様な内容になっていくのか。収入予算が少なくなっている中で市民側のいろいろな要望を入れていくことはそもそも無理ではないか。条例化するという事は、今後の市政の方向を決めていくことになる。それゆえ条例の重要性が増してくる。

5年位前から加治丘陵を散歩していて、どうにかこの自然を良好に保全していく方法はないか、何かそれを手伝う事ができないかと考え、下刈り、間伐、枝うちのボランティアを始めた。グループとなり現在はNPO法人化を目指している。

博物館の「茶の花ボランティア」と、さとやま探険隊に参加している。入間市の身近な自然をもっと身近なところで楽しめないかと考えている。

近年では植林はするが育林はしない。例えば霞川をきれいにする会は各自治会長がメンバーとなっているが、霞川沿いの桜の木の管理がされていない。植えるのは良いが、もう少し育林をしっかりとできないものか。

河川敷は違法駐車や不法投棄が目立つ、何とかして改善する方法はないものか。加治丘陵の保全については、旗揚げはしたものの具体的な事が何も決まっていない。市としてもっと力を注ぐべきである。

活動の促進

「NPOサポートセンター」の制度が必要である。

市民活動をサポートする場や、サポートするしくみづくりが必要である。

市役所に柔軟に対応できるセクション設置が必要である。

サポートセンターは横の広がりを持った話し合いの出来る場所、市民活動のバックアップが出来る場所の設置が必要である。